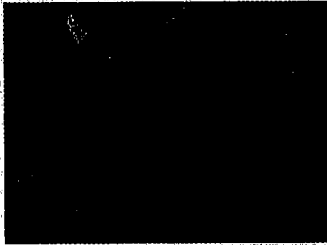


熊本市のシンボル

◇市の木 イ チ ヨ ウ (昭和49年10月9日制定)



森の都宣言2周年と、市制85周年を記念して、広く市民から募集、1万2千通を超す応募の中から決定された。

熊本城が昔から銀杏城と呼ばれ、古木もあり、また、立派なイチョウ並木もあって、市民に親しまれていることなどから選ばれた。

イチョウ科の植物で、ギンナンノキ、チチノキ、公孫樹などともいわれ、日本には古くから主に神社仏閣等で栽培されてきた。雌雄異株であることで知られ、独特な尖円錐形をつくり、夏季の豊かで涼しい木陰、秋の黄葉の美しさは格別である。街路樹として、特に好条件を備えている。

◇市の花 肥 後 ツ バ キ (昭和49年10月9日制定)

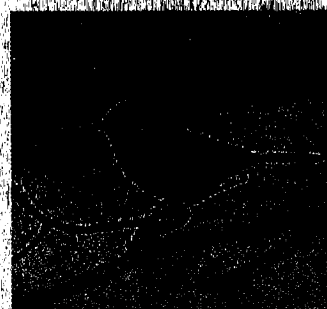


市木同様、森の都宣言2周年と、市制85周年を記念して、広く市民から募集、2万2千通を超す応募の中から決定された。

古くから熊本独特の花として知られ、代表的な名花であるばかりでなく、最近では国際的にも知られつつあり、一般家庭でも容易に育てられることなどから選ばれた。

ツバキ科の植物で、花卉が大きく、八重咲きで平開する。花期は2月～3月、色は白、ピンク、赤、錦(紋り)の4系統ある。特異な姿をもつ肥後ツバキは、古く江戸時代から細川藩の庇護を受け、愛好者によって広められ、改良を重ね、清雅枯淡の味わいのある名花といわれるようになった。

◇市の鳥 シ ジ ュ ウ カ ラ (昭和59年5月22日制定)



健康都市宣言5周年と、市制95周年を記念して、広く市民から募集、6千通を超す応募の中から決定された。

金峰山や立田山、託麻三山などの森に多く生息し、四季を通じて観察される。害虫を多く食べ、緑の森を守る益鳥として広く市民に親しまれていることなどから選ばれた。

シジュウカラ科の鳥類で、全長14センチメートル。くちはしは小さく円錐形、くびと頭は光沢のある黒色で、ほおは白い。背面は黄緑色で、翼は灰青色を帯びる。体の下面は白く中央に一本の黒いたてすじがある。低地の森林に広く分布しているが、秋から冬にかけては市街地でも見かけることができる。

熊本市民「愛市憲章」

「品位ある市民の誇りのために」

- 1 私たち熊本市民は、清潔で住みよい街をつくりましょう。
- 1 私たち熊本市民は、郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう。
- 1 私たち熊本市民は、時間を正しく守りましょう。
- 1 私たち熊本市民は、交通道德を重んじましょう。
- 1 私たち熊本市民は、互いにあたたかく交わり、旅行者を親切に迎えましょう。

(昭和35年5月11日制定)

熊本市民「長寿社会憲章」

「私たち熊本市民は、生きがいのある人生をおくれるよう、すべての人が人間として尊ばれ、敬愛され、ともに幸せな暮らしができる長寿社会を築くことをめざして、この憲章を制定します。」

私たち熊本市民は、

- 1 生涯を通じ、心身の健康づくりに努めます。
- 1 家族のきずなを大切に、明るい家庭をつくります。
- 1 互いに敬い、思いやりあふれる地域社会をつくります。
- 1 知恵と経験をいかし、豊かな文化の継承と創造に努めます。
- 1 すべての人に、安全でやさしい街づくりに努めます。
- 1 自らの能力をいかし、互いに支え合いながら暮らしの安定を築きます。
- 1 水や緑を大切に、やすらぎに満ちたふるさとくまもとをつくります。

(平成2年8月28日制定)

熊本市民「こども憲章」

「私たち熊本市民は、すべてのこどもたちの幸せを願い、その自主性を尊重し、家庭と地域社会が協力して、愛情をもって育成することをめざし、この憲章を定めます。」

私たち熊本市民は、

- 1 こどもたちが、お互いを認め合い、豊かな感性と思いやりの心をはぐくむ社会づくりに努めます。
- 1 こどもたちが、知性を磨き体をきたえて、心身ともにたくましく育つよう努めます。
- 1 こどもたちが、水と緑に恵まれた自然の中で、のびのびと創造性をつちかう環境づくりに努めます。
- 1 こどもたちが、世界の人々と友情をはぐくみ、平和を愛し、広い視野を持つ国際人に育つよう努めます。
- 1 こどもたちが、郷土の歴史と文化を学び、誇りを持てるふるさとづくりに努めます。

(平成6年9月3日制定)

都 市 宣 言

「森の都」都市宣言に関する決議

自然環境の回復による生活環境の保全は、今や人類共通の課題となっている。

由来、わが熊本市は、豊かな緑、清冽な水に恵まれた自然の下、今日の発展を遂げてきたが、急激な都市化の波に、今や昔日の面影は一変しようとしている。

ここにおいてわれわれは一市民の総力を結集して緑と水の保全・回復につとめ、もって人間優先の快適な都市環境づくりに邁進せんことを誓い、わが熊本市を「森の都」とすることを宣言する。

昭和47年10月2日

熊本市議会

地下水保全都市宣言に関する決議

限りある地球の資源の保全は、自然環境の回復と共に人類共通の課題であり、水資源についてもその例外ではない。

古来、わが熊本市は豊かな緑と清冽な地下水に恵まれた自然の下生々発展を遂げて来たが、今日における無秩序な地下水の開発と自然環境の破壊は、今や地下水の汚染をはじめその枯渇さえ憂慮される状態にある。

よって、本議会は市民の総意を結集して自然環境の回復、保全をはかり、貴重な水資源を後世まで守り伝えていくことを誓い、ここにわが熊本市を地下水保全都市とすることを宣言する。

昭和51年3月22日

熊本市議会

熊本市スポーツ都市宣言に関する決議

全ての市民が生産にわたり活力に満ちた健康的な生活を営むことは、まちづくりの基本である。

スポーツの振興は、市民生活の根幹となる心身の健康の保持に欠かせないものであるが、加えて、青少年の健全育成、生き甲斐づくり、地域との交流、自然とのふれあいといった多くの観点からも積極的に推進していく必要がある。

よって、本議会は、二十一世紀に向け三つのスローガンを掲げ、全ての熊本市民がスポーツを通して健康的でいきいきと生活できる都市を目指すことを誓い、ここに我が熊本市を「スポーツ都市」とすることを宣言する。

- 一 スポーツを通して健やかなこころと体を創ろう。
- 一 スポーツを通して人と自然にふれあおう。
- 一 スポーツを通していきいきとしたまちを創ろう。

平成11年8月27日

熊本市議会

「観光立市くまもと」都市宣言に関する決議

熊本市は、熊本城に代表される歴史的文化遺産をはじめ豊かな水と緑に象徴される自然環境、そして近代都市としての多彩な魅力を有し、国内外から多くの観光客が訪れるまちである。

観光は、地域の生活や文化を個性として発信し、その魅力により人々が来訪し交流が生まれる総合的な産業であり、まちづくりや都市経営にも大きく寄与し、21世紀を迎えた今日において重要性はこれまで以上に高まっている。

よって、本議会は、市民が誇りをもち、そして訪れる人にとって魅力ある観光都市を目指し、市民の生活や文化に基づいたまちづくりを進めるとともに、全国に誇れる城下町としての魅力を生かし、熊本らしい個性豊かな観光都市の実現を目標として、ここに我が熊本市を「観光立市くまもと」とすることを宣言する。

平成15年9月26日

熊本市議会

健康都市宣言

熊本市は、緑と水に恵まれた豊かな自然と先人が築いた伝統と文化を擁し、地方における近代的な中枢都市として発展しつつある。

しかし、都市化の進展に伴い市民生活を支える基本である心身の健康を阻害する要因が増大している。

熊本市は、市民とともに明るく健康な都市をめざして諸施策を結集し、その実現につとめなければならない。

ここに、すべての市民の健康を市政の目標として、熊本市を「健康都市」とすることを宣言する。

昭和54年10月1日

熊本市

平和都市宣言

熊本市は、先の大戦において、多くの尊い人命を失うとともに、市街地のほとんどを焼失するなど、大きな災禍を被った。

戦後、焦土の中から立ち上がった市民の英知とたゆまぬ努力によって、緑と水の豊かな自然環境や先人の築いた歴史と文化に支えられながら、今や九州中央の中枢都市として着実に発展を続けている。

私たち熊本市民は、戦後50周年の大きな節目にあたり、先の大戦への深い反省に立ち、未来に向けて平和で豊かな社会を築き、かけがえのない自然環境を次代に引き継ぐため、再び戦争の惨禍を繰り返さないことを誓うとともに、人類共通の願いである世界の恒久平和の達成を希求し、ここに「平和都市」を宣言する。

平成7年7月27日

熊本市

環境保全都市宣言

私たちのふるさと熊本市は、大阿蘇の大地を源とする地下水と緑に恵まれ、この豊かな自然の中で重厚な文化をはぐくみ、「森の都」と呼ばれる美しい近代都市として発展してきました。

しかし、近年、都市化の進展と生活様式の多様化などにより、自然の仕組みが損なわれ、恵みの地下水も将来が危ぶまれています。

いまこそ私たちは、大気と水と大地で成り立つ地球の自然が、人類だけではなく生命あるものすべてにとって、かけがえのないものであることをあらためて思い起こし、その保全のために、自然界の生態系に学んだ循環型社会へと、転換を図っていかなければなりません。

私たちは、美しく豊かなこのふるさとの環境を守り育て、これを次の世代に引き継いでいくことを誓い、ここに熊本市を「環境保全都市」とすることを宣言します。

平成7年9月25日

熊本市

くまもと

市政概要

市議総市保環経建教消交水	勢会務生活社全済設育防通道
--------------	---------------

1

9

21

85

129

211

233

289

333

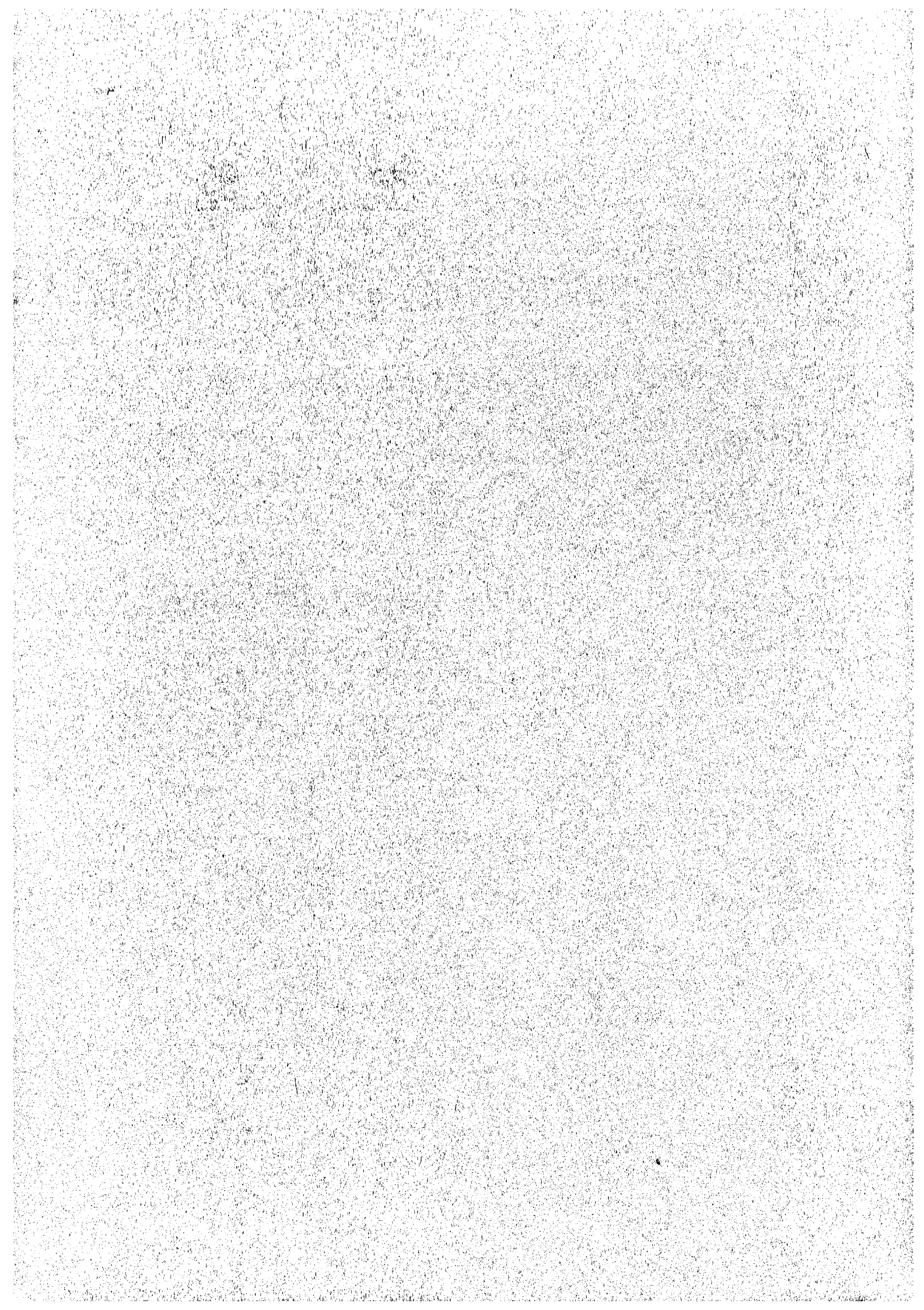
385

399

411

市 勢

1 沿	革	3
2 位 置 及 び 地 勢		4
3 市 域 の 変 遷		5
4 人	口	6



1 沿 革

何億年のむかし、現在の熊本市の大部分は一面の海底で、処々に小島が散在するに過ぎなかったと想像されるが、その後数次にわたる地表上の大変動によって、次第に熊本平野が形成されるにともない、現在の出水・健軍方面の砂礫層から湧きでる清冽な泉をめぐって、縄文人・弥生人の聚落が完成されていった。

古墳時代を経て飛鳥時代に入り、大化の改新(645年)が行われると、託麻の三宅郡(今の出水地方)には、肥後の国府「託麻府」が設けられ、宏壮な伽藍の国分寺の建立を見たが、これらを中心とした聚落が形づくられ大きくなったものが、熊本市の始まりである。

奈良朝前後の日本各地は、国力の大小によって、大・上・中・下と四等級に区別されていたが、肥後はそのころ農産物産出量で九州諸国中群を抜いており、延暦14年9月(平安の初期)に至って、全国中でも優位の資格を認められ「大国」に昇進した。

この期に国司として、肥後に赴任した道君^{みちのきみのおびと}首名、紀夏井、藤原保昌、清原元輔等はいまも幾多の遺跡を留めているが、とくに後撰集の選者で、清少納言の父元輔と、平安期歌人「檜垣女^{ひがきめ}」との交遊の説話は有名である。

南北朝50年間は、戦乱の日が相つぎ、熊本地方もしばしば軍営の場に利用された。

長い戦乱のあと、天下が統一されるや、肥後全土の守護職は改めて菊池氏に委ねられ、一国政令の中心は隈部(現在の菊池市)の方に移った。

降って、応仁の頃菊池の一旗出田三郎秀信は、いまの熊本城東部の丘陵に千葉城(熊本城の始め)を構えたが、次の鹿子木親員が、明応年間(1490年代)に、今の古城の地に居城を移し、隈本城と称えた。ついで、城親冬と、佐々成政のあとを承けて天正16年(1588年)加藤清正が入城するにおよんで、清正は国府の二本木方面から、寺院、商家などを移転させて、城下町の経営に着手した。また、この清正は熊本の自然に、はじめて大規模な人為のツルハシを振った武将で、河川、その他の土木事業に残した功績は大きく、熊本市が城下町としての体裁を整えてきたのは、このころからである。日本三名城の一つとうたわれる熊本城は、この清正が慶長6年から12年にかけて、7カ年の歳月を費して築城したものである。(築城年については異説もある)

細川氏時代は、寛永9年細川忠利の入国によって始まるが、細川氏は自来大政奉還の日に至るまで、200有余年間にわたって肥後熊本の政治を行った。この細川氏は、歴代名君相ついでだが、そのうち、もっとも注目すべきは、延享4年藩主となった8代重賢の政治であろう。このとき国政揚り、教学も大いに振興した。とくに藩校「時習館」や、全国にさがけて創設された医療ないし教育機関としての「再春館」、薬草研究で有名な「蕃滋園」などは、本市が長く文教の府として全国に秀でた因となった。また忠利のときに創建された水前寺(成趣園)は、幽斉ゆかりの古今伝授の間とともに、いまも熊本市の観光資源の一つとなっているが、晩年を熊本に送った剣聖宮本武蔵の遺跡も、熊本が持つ誇りの一つといえよう。

明治4年7月に入って、廃藩置県の大詔が出されると、肥後には、熊本、人吉の二県がおかれ、ついで同年11月改めて熊本、八代の二県となった。ところが翌5年6月熊本県は、ふたたび白川県と改称され、翌々6年1月には八代県が廃止されて、白川県に併合されたため、肥後全域は白川県の所轄となり、熊本市には県庁が設けられた。これは明治9年1月まで続いたが、同年2月さらに改めて熊本県と称せられるようになった。

このころ熊本城には鎮台がおかれ、市内には洋学校と、西洋医学の熊本医学校ができて熊本市は城下町としてにぎわいを見せていたが、9年の神風連事件、翌10年の西南の役と引き続き大きな戦禍に見まわれ、とくに西南の役では、全市街が焦土と化してしまった。22年4月、市制が施行されるとこれまでの「熊本区」は、「熊本市」

と改められた。

明治の初年から、九州における政治・軍事の中心として、各種の官庁が置かれていた熊本市は、24年鉄道の開通によって熊本駅が設けられ、また、30年代に入って市区改正の大事業が行われ、中央部の山崎練兵場が市外に移されて新市街が出現するや、会社、工場、商店その他施設が続々と軒を連ね、日清、日露の戦勝の意気も加わって、明治の隆昌期を現出した。

大正10年、周辺11カ町村を併合して大熊本市の基礎を固め、私鉄菊池軌道、熊本軌道、御船鉄道及び国鉄宮地線の開通整備と並んで13年には、市電の開通があり、更に上水道施設、二十三聯隊の移転等によって、いよいよ近代都市の面目を新たにすることになった。

しかし、昭和20年には空襲を受けて全市の大半は瓦礫と化した。その後全市民の不断の努力によって、戦災、水害等各種の苦難を克服し、今日の隆盛を見ることができた。

市制施行当時は、面積5.55km²、人口4万2千余人を数えるにすぎなかったが、近代的都市機能の集積や平成3年2月の飽託4町との合併をはじめとする16次にわたる市域の拡大等により、今や、面積266.77km²、人口66万人を超えるまでに成長した。また、平成8年4月に中核市へ移行し、名実ともに地方中核都市として着実な発展を続けている。

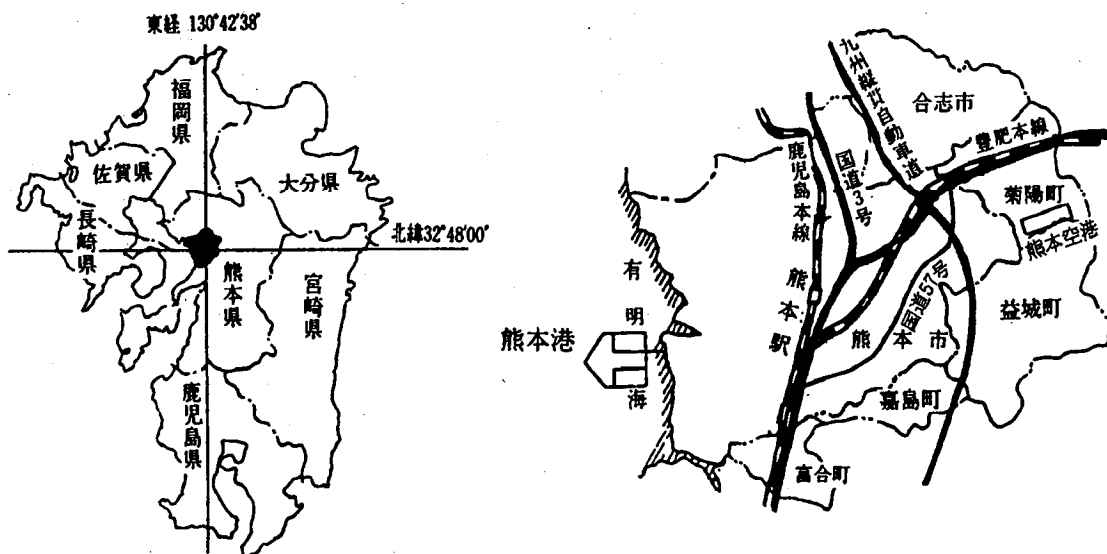
現在は、九州新幹線や高速道路などの広域交通網をはじめ、情報通信網などの整備を促進するとともに、本市のシンボルである熊本城の復元整備や中心市街地の再開発、副都心としての熊本駅周辺の再整備に取り組んでいるほか、環境に負荷をかけない仕組みづくりとして、資源リサイクルや公共交通機関、自転車の利用促進、また、水田や森林の保全等による地下水の保全などに努めている。

このように、本市では、九州の中央に位置する地理的特性を活かし、人、ものなど多様な交流を基調としながらまちの魅力と活力を創出し、日々の暮らしの中で全ての市民がしあわせを実感できるまちづくりに取り組んでいる。

2 位置及び地勢

(1) 位置

●熊本市の位置



熊本市は、ほぼ九州の中心に位置している。九州の陸の大動脈 JR 鹿児島本線の間地点は熊本駅であり、これより豊肥本線、三角線が分岐し、門司～鹿児島を結ぶ国道 3 号と大分～長崎を結ぶ国道 57 号は本市で交差している。さらに本市を貫通する九州縦貫自動車道も門司から鹿児島・宮崎まで開通をみるなど、地理的に九州の中央にあって交通の要衝的位置にある。

また、本市は、観光面からも別府～阿蘇～熊本～天草～雲仙～長崎を結ぶ九州の国際観光ルートを中心地として大きな役割を果たしている。

(2) 地 勢

熊本市は県の中央部にあって有明海に面し、坪井川、白川、緑川の 3 水系の下流部に形成された、いわゆる熊本平野の大部分を占めている。また、阿蘇火山と金峰山系との接合地帯の上に位置する本市は数多くの山岳、丘陵、大地、平野等によって四方を囲まれている。

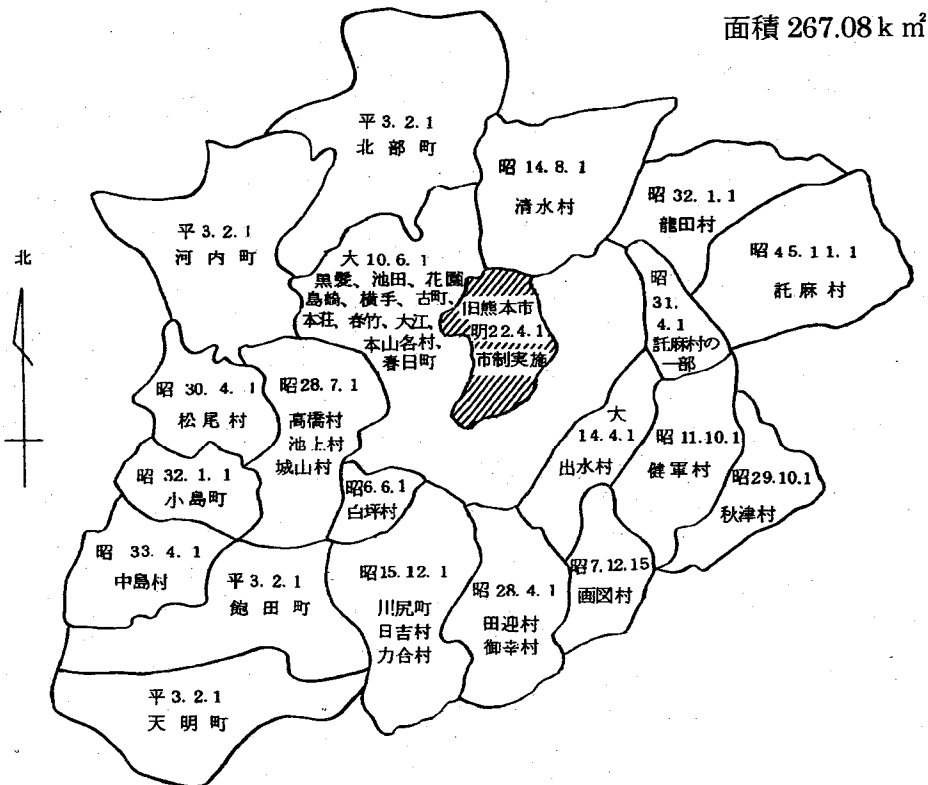
市域の西北方は金峰山地、北部は台地、東部は遠く阿蘇山地に囲まれ、東方から西南にかけて開けている。

西北部は金峰山系の急傾斜の山が重なる一方、中心部は阿蘇火山に源を発する白川と北方の鹿本郡界に流れを発する坪井川・井芹川が市街を貫流して西方の有明海に注いでいる。

水源を水前寺・江津湖に発する流れは木山川と合して加勢川となり、本市の南部を流下している。これらの川は、かんがい水として南部および西部一帯の平野を潤し、農作に大きな効用をもたらしている。

また、西部の海岸地帯は、大部分が干拓地で地形的な変化に乏しく、河口部の河床は白川、坪井川による阿蘇ヨナ質土壌の送流により次第に上昇している。

3 市 域 の 変 遷



4 人 口 (統計課)

(1) 年次別人口及び世帯数

年 次	世帯数	人 口			男女比 (男100人 につき)	1世帯 当たり 人 口	備 考
		総 数	男	女			
明治22年	11,797	42,725				3.6	
大正元年	12,736	66,488	35,938	30,550	85.0	5.2	
8年	13,129	74,544	39,385	35,159	89.3	5.7	
昭和元年	27,157	150,075	75,680	74,395	98.3	5.5	
5年	30,284	167,566	83,218	84,348	101.4	5.5	
10年	38,336	214,270	105,480	108,790	103.1	5.6	
15年	39,813	243,574	116,838	126,736	108.5	6.1	川尻町・日吉村・力合村合併
20年	37,981	180,643	84,935	95,708	112.7	4.8	
25年	59,853	267,506	128,067	139,439	108.9	4.5	(国勢調査)
30年	72,008	332,493	159,501	172,992	108.5	4.6	松尾村合併
35年	90,949	373,922	178,031	195,891	110.0	4.1	(国勢調査)
40年	107,634	407,052	192,538	214,514	111.4	3.8	(")
45年	130,608	449,254	211,322	237,932	112.6	3.4	(") 含旧託麻村
50年	153,540	488,166	231,188	256,978	111.2	3.2	(")
55年	180,239	525,662	251,011	274,651	109.4	2.9	(")
60年	194,486	555,719	265,037	290,682	109.7	2.9	(")
平成 2年	224,070	626,727	297,835	328,892	110.4	2.8	(") 含旧飽託4町
7年	246,700	650,341	310,118	340,223	109.7	2.6	(")
12年	260,672	662,012	314,455	347,557	110.5	2.5	(")
17年	269,929	669,541	316,004	353,537	111.9	2.5	17年国勢調査速報値

(2) 人口の動態

区 分 \ 年	12	13	14	15	16	17
自 然 増	2,777	2,534	2,449	2,134	2,312	1,638
社 会 増	789	936	△22	△774	△1,181	△640
計	3,566	3,470	2,427	1,360	1,131	998

(注) 各年1月1日から12月31日までの動態

(3) 産業別15歳以上就業者数

調査年次 区 分	平 成 7 年 国 調				平 成 12 年 国 調			
	総 数	構成比(%)	男	女	総 数	構成比(%)	男	女
総 数	650,341		310,118	340,223	662,012		314,455	347,557
昼 間 人 口	692,888		332,952	359,936	701,656		334,619	367,037
15歳以上人口	538,080		252,382	285,698	557,142		260,735	296,407
就 業 者 総 数	310,589	100	176,948	133,641	312,869	100	175,536	137,513
第 1 次 産 業	12,845	4.1	7,278	5,567	11,183	3.6	6,289	4,894
農 業	11,592	3.7	6,420	5,172	10,010	3.2	5,515	4,495
林 業	276	0.1	232	44	213	0.1	185	28
漁 業	977	0.3	626	351	960	0.3	589	371
第 2 次 産 業	60,742	19.6	42,339	18,403	58,108	18.6	41,825	16,283
鉱 業	41	0.0	32	9	60	0.0	43	17
建 設 業	29,606	9.5	23,951	5,655	28,673	9.2	23,524	5,149
製 造 業	31,095	10.0	18,356	12,739	29,375	9.4	18,258	11,117
第 3 次 産 業	234,860	75.6	126,200	108,660	237,810	76.0	124,184	113,626
卸売・小売業・飲食店	86,279	27.8	43,643	42,636	84,018	26.9	41,089	42,929
金融・保険業	12,928	4.2	6,255	6,673	11,821	3.8	5,937	5,884
不動産業	4,130	1.3	2,362	1,768	4,105	1.3	2,308	1,797
運輸・通信業	18,221	5.9	15,315	2,906	17,535	5.6	14,295	3,240
電気・ガス・熱供給・水道業	1,561	0.5	1,335	226	1,572	0.5	1,395	177
サービス業	94,388	30.4	43,577	50,811	101,281	32.4	45,155	56,126
公 務	17,353	5.6	13,713	3,640	17,478	5.6	14,005	3,473
分類不能の産業	2,142	0.7	1,131	1,011	5,768	1.8	3,058	2,710

(注) 単位未満は4捨5入を原則としているので、総数と内容の計とは必ずしも一致しない場合がある。

(4) 校区別人口及び世帯数

(平成17年国勢調査速報値)

地区・校区別	世帯数	人 口			地区・校区別	世帯数	人 口		
		総数	男	女			総数	男	女
総 数	269,929	669,541	316,004	353,537					
中央地区	71,182	142,244	66,440	75,804	城北	3,505	10,548	5,622	4,926
城 東	1,089	2,179	861	1,318	麻生田	3,394	9,243	4,270	4,973
慶 徳	1,578	2,674	1,153	1,521	榆 木	2,725	7,215	3,316	3,899
五 福	1,394	2,976	1,268	1,708	楠	2,781	7,203	3,426	3,777
一 新	4,563	9,647	4,232	5,415	武 蔵	2,447	6,356	2,994	3,362
壺 川	4,049	8,499	3,869	4,630	弓 削	1,896	5,147	2,492	2,655
碩 台	3,515	6,627	2,801	3,826	龍 田	5,480	15,156	7,246	7,910
黒 髪	9,776	16,874	8,631	8,243	西 里	2,444	7,467	3,545	3,922
託麻原	9,094	18,803	9,644	9,159	北部東	3,303	9,171	4,382	4,789
大江	5,309	9,599	4,476	5,123	川 上	3,458	10,156	4,804	5,352
白 川	4,119	7,600	3,454	4,146					
白 山	5,129	11,029	5,094	5,935	西部地区	26,414	72,644	33,624	39,020
出水	4,281	8,517	3,862	4,655	白 坪	4,926	11,692	5,336	6,356
春 竹	6,676	14,595	6,651	7,944	城 西	5,269	13,295	5,925	7,370
本 荘	1,928	3,442	1,449	1,993	花 園	5,088	12,073	5,727	6,346
向 山	4,337	9,383	4,341	5,042	城 山	3,336	10,245	4,777	5,468
古 町	1,470	3,135	1,434	1,701	高 橋	208	508	233	275
春 日	2,875	6,665	3,220	3,445	池 上	2,237	6,387	2,942	3,445
					松尾東	819	2,409	1,145	1,264
東部地区	81,637	207,555	98,735	108,820	松尾西	380	1,233	582	651
託麻北	2,983	8,578	4,166	4,412	松尾北	64	250	131	119
託麻東	4,089	12,410	6,073	6,337	小 島	1,070	3,335	1,596	1,739
長 嶺	4,466	11,901	5,631	6,270	中 島	1,119	3,958	1,832	2,126
託麻西※1	7,107	17,901	8,642	9,259	河 内	1,302	4,978	2,327	2,651
託麻南	4,750	13,418	6,600	6,818	芳 野	596	2,281	1,071	1,210
西 原	6,590	14,527	7,151	7,376					
帶山西	3,448	8,083	3,776	4,307	南部地区	41,521	117,460	54,961	62,499
帶 山	6,325	14,817	6,926	7,891	出水南	4,777	12,668	5,970	6,698
砂 取	4,097	9,549	4,260	5,289	画 図	3,937	11,049	5,060	5,989
尾ノ上	5,287	13,240	6,238	7,002	田 迎	4,325	11,563	5,535	6,028
月 出	3,673	8,312	3,940	4,372	田 迎南	2,344	6,637	3,182	3,455
山ノ内	3,506	9,154	4,302	4,852	御 幸	3,446	10,956	4,970	5,986
健軍東	2,064	5,516	2,672	2,844	日 吉	2,629	6,709	3,141	3,568
東 町	3,106	8,588	4,205	4,383	城 南	2,508	6,416	2,960	3,456
桜 木	2,983	7,972	3,745	4,227	川 尻	3,278	8,674	4,057	4,617
秋 津	4,534	12,558	5,945	6,613	力 合	5,429	15,410	7,207	8,203
若 葉	2,271	5,374	2,468	2,906	飽田西	750	2,553	1,183	1,370
泉ヶ丘	2,906	7,086	3,228	3,858	飽田東	2,200	6,655	3,122	3,533
健 軍	5,347	12,749	5,984	6,765	飽田南	579	2,125	951	1,174
桜木東	2,105	5,822	2,783	3,039	銭 塘	648	2,319	1,107	1,212
					奥古閑	971	3,614	1,688	1,926
北部地区	49,175	129,638	62,244	67,394	川 口	683	2,253	1,066	1,187
池 田	7,148	14,773	7,519	7,254	中 緑	330	1,076	497	579
高 平	5,629	14,741	6,966	7,775	日吉東※2	2,687	6,783	3,265	3,518
清 水	4,965	12,462	5,662	6,800					

※1 託麻西校区に一部月出校区を含む。

※2 日吉東校区に一部日吉校区を含む。

議 会

1 議 員 名 簿	11
2 歴代議長・副議長	12
3 議 会 構 成	13
4 常 任 委 員 会	14
5 議会運営委員会	14
6 特 別 委 員 会	14
7 各 種 委 員	15
8 報 酬 及 び 諸 手 当	15
9 議 会 活 動 状 況	16
10 議 会 事 務 局	18



1 議員名簿

平成18年8月1日現在

定数 52名
現員数 52名

自由民主党熊本市議団	19	改革フォーラム	3
くまもと市民連合	10	自由クラブ	1
公明党熊本市議団	7	真政クラブ	1
市民クラブ	7	一步の会	1
日本共産党熊本市議団	3		

議席 番号	氏 名	会 派	当選 回数	議席 番号	氏 名	会 派	当選 回数
議長 1	税 所 史 熙	自由民主党 熊本市議団	4	27	中 松 健 児	くまもと市民連合	3
副議長 2	田 尻 清 輝	市民クラブ	4	28	佐々木 俊 和	くまもと市民連合	4
3	澤 田 昌 作	自由民主党 熊本市議団	1	29	田 辺 正 信	くまもと市民連合	4
4	高 島 和 男	市民クラブ	1	30	鈴 木 弘	公明党熊本市議団	3
5	大 石 浩 文	改革フォーラム	1	31	竹 原 孝 昭	自由民主党 熊本市議団	4
6	田 尻 善 裕	改革フォーラム	1	32	牛 嶋 弘	自由民主党 熊本市議団	4
7	白河部 貞 志	改革フォーラム	1	33	古 川 泰 三	自由民主党 熊本市議団	4
8	倉 重 徹	真政クラブ	1	34	落 水 清 弘	自由民主党 熊本市議団	5
9	廣 瀬 賜 代	一步の会	1	35	北 口 和 皇	自由クラブ	4
10	有 馬 純 夫	公明党熊本市議団	1	36	田 尻 将 博	くまもと市民連合	4
11	満 永 寿 博	自由民主党 熊本市議団	1	37	家 入 安 弘	くまもと市民連合	4
12	三 島 良 之	自由民主党 熊本市議団	1	38	大 江 政 久	くまもと市民連合	4
13	齊 藤 聰	自由民主党 熊本市議団	1	39	上 村 恵 一	くまもと市民連合	4
14	津 田 征 士 郎	自由民主党 熊本市議団	2	40	島 田 俊 六	公明党熊本市議団	4
15	鷺 山 法 雲	自由民主党 熊本市議団	3	41	江 藤 正 行	自由民主党 熊本市議団	6
16	上 野 美 恵 子	日本共産党 熊本市議団	2	43	荒 木 哲 美	自由民主党 熊本市議団	6
17	東 美 千 子	くまもと市民連合	1	44	主 海 偉 佐 雄	自由民主党 熊本市議団	6
18	村 上 博	くまもと市民連合	2	45	嶋 田 幾 雄	自由民主党 熊本市議団	8
19	日和田 よしこ	公明党熊本市議団	2	46	紫 垣 正 良	自由民主党 熊本市議団	10
20	藤 岡 照 代	公明党熊本市議団	2	47	島 永 慶 孝	自由民主党 熊本市議団	10
21	坂 田 誠 二	自由民主党 熊本市議団	3	48	矢 野 昭 三	自由民主党 熊本市議団	10
22	藤 山 英 美	市民クラブ	3	49	鈴 木 昌 彦	市民クラブ	5
23	田 中 誠 一	市民クラブ	3	50	宮 原 政 一	市民クラブ	6
24	下 川 寛	市民クラブ	4	51	益 田 牧 子	日本共産党 熊本市議団	5
25	重 松 孝 文	日本共産党 熊本市議団	3	52	磯 道 文 徳	公明党熊本市議団	5
26	東 すみよ	くまもと市民連合	3	53	西 泰 史	公明党熊本市議団	5

議
会

2 歴代議長・副議長

議長				副議長			
代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治 22. 4. 26	明治 24. 1. 21	1	下田一直	明治 22. 4. 26	明治 24. 1. 21
2	興津景章	// 24. 1. 22	// 28. 5. 13	2	下田耕造	// 24. 1. 22	// 31. 2. 22
3	河原惟親	// 28. 5. 14	// 31. 5. 22				
4	吉永為己	// 31. 5. 23	// 36. 2. 5	3	片山甚十郎	// 31. 5. 23	// 32. 2. 7
5	山田珠一	// 36. 2. 6	// 37. 4. 30	4	林定男	// 32. 2. 8	// 36. 2. 5
				5	出田彦太郎	// 36. 2. 6	// 36. 2. 11
6	吉永為己	// 37. 5. 27	大正 2. 4. 30	6	園部交雅	// 36. 2. 12	// 36. 5. 11
				7	板垣正軌	// 36. 5. 12	// 37. 2. 12
7	林千八	大正 2. 5. 10	// 6. 4. 30	8	有働格四郎	// 37. 2. 13	// 40. 11. 4
8	山隈康	// 6. 5. 15	// 10. 9. 30	9	板垣正軌	// 40. 11. 14	// 42. 1. 27
9	迫源次郎	// 10. 10. 14	// 14. 9. 30	10	河田巖	// 42. 1. 28	大正 2. 4. 30
10	山隈康	// 14. 10. 12	昭和 9. 5. 7	11	井場熊喜	大正 2. 5. 10	// 6. 4. 30
11	平野龍起	昭和 9. 5. 8	// 17. 6. 14	12	峽謙齋	// 6. 5. 15	// 7. 3. 10
12	佐藤真佐男	// 17. 7. 23	// 22. 4. 29	13	藤野乱	// 7. 3. 11	// 10. 9. 30
13	佐藤真佐男	// 22. 6. 9	// 23. 4. 7	14	水上誠規	// 10. 10. 14	// 14. 9. 30
14	大塚勇次郎	// 23. 6. 5	// 26. 4. 29	15	河田巖	// 14. 10. 12	昭和 4. 9. 30
15	大塚勇次郎	// 26. 5. 15	// 30. 4. 30	16	平野龍起	昭和 4. 10. 12	// 9. 5. 7
16	兼坂安次	// 30. 5. 21	// 34. 4. 8	17	橋本寿七	// 9. 5. 8	// 17. 5. 20
17	打出信行	// 34. 6. 12	// 36. 3. 24	18	西郷一恵	// 17. 6. 11	// 22. 4. 29
18	寸坂幸夫	// 36. 3. 24	// 38. 4. 30	19	大塚勇次郎	// 22. 6. 9	// 23. 6. 5
19	阿部次郎	// 38. 5. 18	// 40. 3. 18	20	加川恒次	// 23. 6. 5	// 26. 4. 29
20	井上常八	// 40. 3. 18	// 40. 12. 7	21	北利民	// 26. 5. 15	// 28. 9. 5
21	石井辰雄	// 41. 7. 4	// 42. 4. 30	22	上野勉	// 28. 9. 25	// 30. 4. 30
22	阿部次郎	// 42. 5. 20	// 43. 7. 3	23	森光吉	// 30. 5. 21	// 32. 12. 28
23	坂梨日露	// 43. 7. 13	// 45. 12. 4	24	吉村貞次	// 34. 6. 12	// 35. 3. 21
24	黒田弥一郎	// 45. 12. 4	// 46. 4. 30	25	坂梨日露	// 35. 3. 21	// 37. 7. 9
25	落水清	// 46. 5. 20	// 48. 6. 6	26	吉村貞次	// 37. 7. 9	// 38. 4. 30
26	古川国雄	// 48. 6. 6	// 50. 4. 30	27	石井辰雄	// 38. 5. 18	// 41. 7. 4
27	紫垣正良	// 50. 5. 16	// 52. 6. 4				
28	上田堅太	// 52. 6. 4	// 54. 4. 30	28	吉村貞次	// 41. 7. 4	// 42. 4. 30
29	島永慶孝	// 54. 5. 14	// 56. 12. 8	29	佐藤寿子	// 42. 5. 20	// 44. 3. 24
30	藤山増美	// 56. 12. 8	// 58. 4. 30	30	古川国雄	// 44. 3. 25	// 44. 6. 28
31	宮原光男	// 58. 5. 18	// 60. 9. 6	31	岩尾恵	// 44. 9. 13	// 46. 4. 30
32	大石文夫	// 60. 9. 6	// 61. 12. 15	32	阪本富	// 46. 5. 20	// 48. 6. 6
33	内田幸吉	// 61. 12. 15	// 62. 4. 3	33	荒木昇	// 48. 6. 6	// 50. 4. 30
34	西村建治	// 62. 5. 22	// 63. 12. 16	34	藤山増美	// 50. 5. 16	// 52. 6. 4
35	村上春生	// 63. 12. 16	平成 2. 3. 26	35	矢野昭三	// 52. 6. 4	// 54. 4. 30
36	矢野昭三	平成 2. 3. 26	// 3. 4. 30	36	上妻重蔵	// 54. 5. 14	// 56. 12. 8
37	嶋田幾雄	// 3. 5. 17	// 5. 12. 3	37	田尻武男	// 56. 12. 8	// 58. 4. 30
38	中村徳生	// 5. 12. 3	// 7. 4. 30	38	白石正	// 58. 5. 18	// 60. 9. 6
39	荒木哲美	// 7. 5. 19	// 9. 3. 27	39	北口政義	// 60. 9. 6	// 61. 12. 15
40	主海偉佐雄	// 9. 3. 27	// 11. 4. 30	40	吉村潔	// 61. 12. 15	// 62. 4. 3
41	江藤正行	// 11. 5. 21	// 13. 6. 8	41	竹本勇	// 62. 5. 22	// 63. 12. 16
42	白石正	// 13. 6. 8	// 14. 6. 18	42	村上裕人	// 63. 12. 16	平成 2. 3. 26
43	宮原政一	// 14. 6. 18	// 15. 4. 30	43	佐藤公平	平成 2. 3. 26	// 3. 4. 30
44	落水清弘	// 15. 5. 23	// 16. 9. 7	44	西田統	// 3. 5. 17	// 5. 12. 3
45	古川泰三	// 16. 9. 7	// 17. 12. 20	45	伊形寛治	// 5. 12. 3	// 7. 4. 30
46	税所史熙	// 17. 12. 20	在任中	46	宮原正一	// 7. 5. 19	// 9. 3. 27
				47	中沢誠	// 9. 3. 27	// 11. 4. 30
				48	鈴木昌彦	// 11. 5. 21	// 13. 6. 8
				49	岡田健士	// 13. 6. 8	// 14. 6. 18
				50	奥田光弘	// 14. 6. 18	// 15. 4. 30
				51	竹原孝昭	// 15. 5. 23	// 16. 9. 7
				52	家入安弘	// 16. 9. 7	// 17. 12. 20
				53	田尻清輝	// 17. 12. 20	在任中

3 議 会 構 成

(平18.8.1現在)

(1) 議 員 数

法定上限数 56人

定 数 52人 (平成12年3月30日議決)

(2) 年 齢 別

年齢	会派	自民党	市民連合	公明党	市民ク	共産党	改 革	自由ク	真 政 ク	一歩の会	計
25 ～ 30											
31 ～ 40		1									1
41 ～ 50		1	1		2	1	2	1	1		9
51 ～ 60		6	6	6	2	2	1			1	23
61 ～ 70		7	3	1	3						14
71 以上		4									4
計		19	10	7	7	3	3	1	1	1	52
平均年齢		62	58	55	57	54	47	48	47	52	58



(3) 当 選 回 数 別

当選回数	会派	自民党	市民連合	公明党	市民ク	共産党	改 革	自由ク	真 政 ク	一歩の会	計
1		4	1	1	1		3		1	1	12
2		1	1	2		1					5
3		2	2	1	2	1					8
4		4	6	1	2			1			14
5		1		2	1	1					5
6		3			1						4
7											0
8		1									1
9											0
10		3									3
計		19	10	7	7	3	3	1	1	1	52

4 常任委員会

(平18.8.1現在)

名 称 (定数)	正・副委員長	委 員	所 管 事 項
総務委員会 (9)	(正)坂田 誠二 (副)中松 健児	三島 良之 江藤 正行 上野美恵子 宮原 政一 北口 和皇 西 泰史 家入 安弘	市長室、総務局、企画財政局、会計室、消防 選挙管理委員会、監査委員、人事委員会の所管 に属する事項、他の常任委員会の所管に属しな 事項
教育市民委員会 (9)	(正)東 すみよ (副)日和田よしこ	澤田 昌作 上村 恵一 倉重 徹 嶋田 幾雄 廣瀬 賜代 鈴木 昌彦 古川 泰三	市民生活局、教育委員会の所管に属する事項
保健福祉委員会 (9)	(正)鈴 木 弘 (副)東 美千子	田尻 善裕 矢野 昭三 満永 寿博 益田 牧子 下川 寛 磯道 文徳 竹原 孝昭	健康福祉局、市民病院の所管に属する事項
環境水道委員会 (8)	(正)田辺 正信 (副)齊 藤 聡	税所 史熙 田尻 将博 高島 和男 主海 偉雄 有馬 純 純 法雲 鷺山 法雲	環境保全局、水道局の所管に属する事項
経済交通委員会 (8)	(正)田中 誠一 (副)津田征士郎	田尻 清輝 島田 俊六 白河部貞志 島永 慶孝 佐々木俊和 落 清弘 落水 清弘	経済振興局、農業委員会、交通局の所管に属す 事項
建設委員会 (9)	(正)藤 山 英美代 (副)藤 岡 照代	大石 浩文 大江 政久 村 上 荒木 哲美 松 孝 紫垣 正良 牛 嶋 弘	都市整備局、建設局の所管に属する事項

5 議会運営委員会

(平18.8.1現在)

名 称 (定数)	正・副委員長	委 員
議会運営委員会 (13)	(正)牛 嶋 弘 (副)佐々木 俊和	白河部貞志 江藤 正行 津田征士郎 主海 偉雄 坂田 誠二 宮原 政一 藤山 英美 益田 牧子 田辺 正信 磯道 文徳 鈴木 弘

6 特別委員会

(平18.8.1現在)

名 称 (定数)	正・副委員長	委 員	設 置 目 的	設置年月日
政令指定都市 実現に関する 特別委員会 (13)	(正)江 藤 正行 (副)田 中 誠一	有馬 純夫 大江 政久 齊 藤 聡文 上村 恵一 重松 孝正 荒木 哲美 田辺 正信 嶋田 幾雄 鈴木 弘 磯道 文徳 古川 泰三	政令指定都市実現に向けた対策の 推進に関する調査	平15.5.23
総合的都市 活性化に関する 特別委員会 (13)	(正)主海 偉雄 (副)島 田 俊六	澤田 昌作 牛嶋 弘 田尻 善裕 落水 清弘 廣瀬 賜代 北口 皇 上野美恵子 田尻 将博 下川 寛 紫垣 正良 中松 健児	新幹線整備、都市及び経済活性化 並びに雇用促進のための総合的な 対策に関する調査	平15.5.23
少子高齢社会 に関する 特別委員会 (13)	(正)西 泰史 (副)東 すみよ	高島 和男 東 美千子 大石 浩文 村 上 博 倉重 徹 日和田よしこ 満永 寿博 藤山 英美 三島 良之 矢野 昭三 鷺山 法雲	少子化並びに高齢社会に対応する 施策に関する調査	平15.5.23
地方自治の推進 に関する 調査特別委員会 (13)	(正)紫 垣 正良 (副)鈴 木 弘	田尻 清輝 田辺 正信 大石 浩文 竹原 孝昭 齊 藤 聡 落 清弘 上野美恵子 嶋田 幾雄 下川 寛 磯道 文徳 佐々木 俊和	熊本市における地方自治推進のあ り方に関する調査	平17.3.23

7 各種委員

(平18.8.1現在)

名 称	議員数	任 期	委 員 名
監 査 委 員	2	議員の任期中	嶋 田 幾 雄 磯 道 文 徳
農 業 委 員	4	3年	東 す み よ 鈴 木 弘 江 藤 正 行 島 永 慶 孝
都 市 計 画 審 議 会 委 員	8	議員の任期中	田 尻 清 輝 村 上 博 下 川 寛 牛 嶋 弘 田 尻 将 博 矢 野 昭 三 益 田 牧 子 西 泰 史
町 界 町 名 審 議 会 委 員	9	2年	倉 重 徹 満 永 寿 博 三 島 良 之 鷺 山 法 雲 田 辺 正 信 家 入 安 弘 島 田 俊 六 鈴 木 昌 彦 宮 原 政 一
市 民 会 館 運 営 委 員 会 委 員	3	2年	日和田よしこ 田 辺 正 信 古 川 泰 三
青 少 年 問 題 協 議 会 委 員	4	議員の任期中	澤 田 昌 作 高 島 和 男 藤 岡 照 代 東 す み よ
勤 労 青 少 年 ホ ー ム 運 営 委 員 会 委 員	2	2年	澤 田 昌 作 北 口 和 皇
ホ テ ル 等 建 築 審 査 会 委 員	2	2年	白 河 部 貞 志 満 永 寿 博
産 業 文 化 会 館 運 営 協 議 会 委 員	2	2年	重 松 孝 文 島 永 慶 孝
財 団 法 人 熊 本 県 武 道 振 興 会 理 事	2	2年	田 尻 善 裕 齊 藤 聡
ス ポ ー ツ 振 興 審 議 会 委 員	4	2年	田 中 誠 一 佐 々 木 俊 和 島 田 俊 六 主 海 偉 佐 雄
国 民 健 康 保 険 運 営 協 議 会 委 員	3	2年	坂 田 誠 二 上 村 恵 一 江 藤 正 行
環 境 審 議 会 委 員	3	2年	齊 藤 聡 鈴 木 弘 大 江 政 久
総 合 女 性 セ ン タ ー 運 営 協 議 会 委 員	4	2年	有 馬 純 夫 上 野 美 恵 子 東 美 千 子 竹 原 孝 昭
熊 本 市 社 会 福 祉 審 議 会 委 員 (民生委員審査専門分科会所属)	1	3年	津 田 征 士 郎



8 報酬及び期末手当

区 分	現行報酬月額	施行年月日	改正前報酬月額	施行年月日	議員期末手当
議 長	822,000円	平16.4.1	831,000円	平15.4.1	6月 145/100
副 議 長	749,000円		757,000円		12月 155/100
議 員	678,000円		685,000円		3月 30/100

9 議会活動状況

(1) 本会議開催状況

(平成17年)

区 分 会 議	会 期	本会議 日 数	会議時間数	傍 聴 人 員		
				男	女	計
第1回定例会	3.2 ～ 3.23 (22日間)	8日	23時間55分	401	286	687
第2回定例会	6.13 ～ 6.22 (10日間)	4日	10時間01分	176	78	254
第3回定例会	9.13 ～ 9.30 (18日間)	7日	19時間34分	343	314	657
第4回定例会	12.6 ～ 12.20 (15日間)	6日	18時間01分	148	136	284
計	(65日間)	25日	71時間31分	1,068	814	1,882

(2) 本会議審議状況

(平成17年)

議案等 議会別		市 長 提 出 議 案								議員提出議案					そ の 他										
		条 例	予 算	決 算	契 約 締 結	財 産 取 得 処 分	専 決 処 分	公 務 員 任 命	そ の 他	計	条 例	会 議 規 則	意 見 書	決 議	懲 罰	計	動 議	請 求	諮 問	請 願	質 問	選 挙	調 査	議 員 派 遣	
第1回定例会		28	38		2	1		4	24	97			7	1		8	1	3	2	1	10				
第2回定例会		6	2			3	5	1	20	37			8			8	1		8	1	4				
第3回定例会		39	4	5	4		4		40	96			7	1		8	2		4	4	9			2	
第4回定例会		15	6		3				235	259			5			5		3	1	3	8	2			
計		88	50	5	9	4	9	5	319	489			27	2		29	4	6	15	9	31	2		2	
審 議 結 果	可 決	85	49		9	4			319	466			18	2		20	4							2	
	修正可決		1							1															
	否 決											9			9										
	承 認						9			9															
	同 意							5		5															
	同意しない																								
	認 定			5						5															
	異議がない																	15							
	採 択																				1				
	不 採 択																				7				
	継続審査	3									3										1				
	審査未了																								
	撤 回																								
了 承																									
許 可																	6								

(3) 委員会審査状況

(平成17年)

区 分 委員会別	開 催 日 数	市 長 提 出 議 案							議 員 提 出 議 案				
		条 例	予 算	契 約	財 産 取 得	専 決 処 分	そ の 他	計	条 例	請 願	陳 情	そ の 他	計
総 務	16(3)	21	8	7	1	5	3	45		4	6		10
教 育 市 民	8(1)	18	6			2	52	78			7		7
保 健 福 祉	13(3)	21	22			2	143	188		1	41		42
環 境 水 道	11(2)	7	7		1		4	19		1	4		5
経 済 交 通	7(1)	11	16		2		8	37			7		7
建 設	9(1)	10	15	2			106	133		2	12		14
議会運営委員会	13(8)									1	2		3
政令指定都市実現 に 関 する 特 別 委 員 会	4(3)												
総合的都市活性化 に 関 する 特 別 委 員 会	3(3)												
少子高齢社会 に 関 する 特 別 委 員 会	3(3)												
地方自治の推進 に関する調査 特 別 委 員 会	8(7)	1						1					
平成16年度一般 並びに特別会計 決算特別委員会	9(8)						1	1					
平成16年度公営 企業会計決算 特 別 委 員 会	4(3)						4	4					
計	108(46)	89	74	9	4	9	321	506		9	79		88

※委員会の傍聴については、平成13年第4回定例会より、テレビモニターによる公開を実施している。

※開催日数の()内は定例会(臨時会)閉会中の委員会開催分(再掲)

議
会

10 議会事務局

(1) 事務分掌

総務課

- ① 公印の保管に関すること。
- ② 文書の発受及び整理、保存に関すること。
- ③ 秘書及び渉外に関すること。
- ④ 予算及び決算に関すること。
- ⑤ 議員の身分、辞職及び補欠に関すること。
- ⑥ 議員の報酬、費用弁償及びその他の給与に関すること。
- ⑦ 議員共済会に関すること。
- ⑧ 職員の人事厚生及び服務に関すること。
- ⑨ 職員の給料、旅費及びその他の給与に関すること。
- ⑩ 儀式及び交際に関すること。
- ⑪ 議長会及び局長会等に関すること。
- ⑫ 議会関係規程の制定及び改廃に関すること。
- ⑬ 議場その他議会関係各室の管理に関すること。
- ⑭ 物品の出納、保管に関すること。
- ⑮ 乗用自動車に関すること。
- ⑯ 他の課の所管に属しないこと。

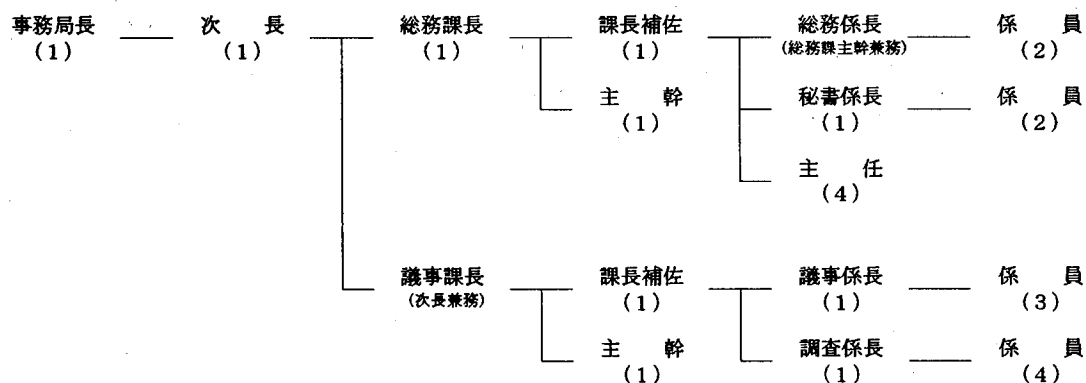
議事課

- ① 本会議に関すること。
- ② 議案その他会議に関する文書に関すること。
- ③ 請願書及び陳情書に関すること。
- ④ 委員会に関すること。
- ⑤ 公聴会に関すること。
- ⑥ 行政調査に関すること。
- ⑦ 資料の収集整理及び保管に関すること。
- ⑧ 図書室に関すること。
- ⑨ 速記に関すること。
- ⑩ 会議録の編集に関すること。
- ⑪ その他議事運営に関すること。

(2) 組織図 (平成18年8月1日現在)

定 数 28人

現員数 25人



(3) 議会刊行物

区分 刊行物	発行回数	1回当たり 発行部数(部)	規格	印刷方法	予算(円)	配 付 先
市 政 概 要	年1回	150	A4	PTO	750,000	議員、執行部、来訪議員
会 議 録	定例会ごと (臨時会を含む)	160	A4	オンデマンド	4,643,000 (速記委託料含む)	議員、執行部
委 員 会 会 議 録	定例会ごと	160	A4	オンデマンド	3,553,000	議員、執行部
市 議 会 例 規	4年に1回	80	A5	PTO	320,000	議員
同 上 追 録	年2回	80	A5	PTO	280,000	議員
意 見 書・決 議 集	4年に1回	100	A5	PTO	65,000	議員
予 算 関 係 資 料	年1回	150	A4	PTO	300,000	議員、執行部、来訪議員

議会

(4) 議会図書室

ア 図書蔵書数

(平18.8.1現在)

分 類	蔵書数(冊)	分 類	蔵書数(冊)
0 総 記	265	5 工 学	38
1 哲 学	21	6 産 業	56
2 歴 史	658	7 芸 術	48
3 社 会 科 学	1,885	8 語 学	158
4 自 然 科 学	40	9 文 学	23
合 計			3,192

イ 定期購入誌

自治研究、市政、ガバナンス、くまもと経済、地方行政、時事トップコンフィデンシャル、内外情勢資料

ウ 新 聞

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、熊本日日新聞、日本経済新聞

エ 図書購入予算

平成18年度 単行本 243千円

追録、雑誌等 1,041千円

(5) 視察来訪状況

月(年)別	来訪市数	来訪人員	月(年)別	来訪市数	来訪人員
平成17年1月	29	225	10月	24	242
2	30	201	11	21	197
3	5	28	12	2	6
4	7	90	平成17年合計	149	1,271
5	9	56	月平均	12	102
6	1	5	平成16年合計	138	1,139
7	17	169	15	89	718
8	4	52	14	150	1,238
9	-	-	13	124	866

議場見取図

傍 聴 席 (固定席 112席 + 車椅子 15台程度)											
市 政 記 者 席											
41 43 44 45				46 47 48 49				50 51 52 53			
31 32 33				34 35 36 37				38 39 40			
21 22 23				24 25 26 27				28 29 30			
11 12 13				14 15 16 17				18 19 20			
1 2 3				4 5 6 7				8 9 10			
説明員席				速記者席				説明員席			
				演 壇							
				議長席 事務局長							